ドキドキわくわく　あたらしい本

2023.12

えほん

クリスマス　マーケット

～ちいさなクロのおはなし～

降矢なな　文・絵　福音館書店

12 がつ、まちのひろばにクリスマスマーケットができます。そのひろばのクリスマスツリーのしたに、まっくろなこいぬがすてられていました。こいぬは、クロとなづけられ、いちばのにんきものになります。

あるひ、いちばにかいものにきたおんなのこがおとしていった、白いぬいぐるみをみつけたクロは、そのこスノゥをとどけようとおもいます。

きみにおやすみをいうまえに

ジョルジョ・ヴォルペ　文
パオロ・プロイエッティ　絵
ほりぐちみのり　訳　　工学図書

もりのはっぱが、きいろやオレンジにそまるとき、ロッソとクイックはむちゅうであそびます。

やがて、ふゆのにおいがかんじられると、ロッソにとってかなしいきせつがやってきます。いちばんなかよしのクイックがねむりについて、はるまであえなくなるのです。どうしたら、おきていてくれるのか、ロッソは、かんがえます。

低学年

ななちゃんのたからもの

小手鞠るい　作　すずきみほ　絵
岩崎書店

小学二年生のきくのちゃんは、本のほかに友だちはいなくてもへいきというほど、本がだいすきです。ある日、おばあちゃんの「ななちゃん」がいるアメリカへあそびに行きました。そこは森の家で、庭に動物たちがやってきます。ある朝、うさぎのみみちゃんを見たきくのちゃんは、なかよくなりたい、友だちになりたいと思いました。

ヤモリ３きょうだい

やぎたみこ　作
理論社

きょうはママのおたんじょうび。よるはかぞくでパーティがあるのに、そうたくんとげんたくんのおへやはちらかっています。かいものにいくパパからきれいにしておくようにいわれますが、なかなかはかどりません。ふたりはおかたづけがだいきらいなんです。そこへ１ぴきのヤモリがあらわれました。ひとのいえをまもるヤモリのひみつをおしえてもらいます。

ドキドキわくわく　新しい本　2023.12

中学年

暗やみに能面ひっそり

佐藤まどか　作　アンマサコ　絵
BL 出版

宗太は 4 年生。かあさんと二人暮らしだが、夏休みにかあさんが海外出張に行く間、京都のおじいちゃんのところで過ごすことになった。小さいころに一度会っただけでよく覚えていなかったが、時代劇っぽいつくりの家での京都の古い暮らしにびっくりすることばかり。

かべには能面がたくさんあって最初はこわいと思ったが、能面師のおじいちゃんの仕事を見て、木のかたまりから作り出すことを知り、自分でも作りたくなってきた。

宗太はおじいちゃんに教わりながら、能面づくりにちょうせんしてみることにした。

子ぎつねと音のなる石

くすのきしげのり　作　酒井以　絵
あかね書房

これは、まだランプをつかっている家があったころの話です。

わかい音楽家のジンはきままに旅をしながら曲をつくり、歌をうたってくらしていました。ある町の小さな宿にとまったときのこと。つくったばかりの曲を口ずさんでいると、いつのまにか小さな女の子がそばできいていました。しばらくすると女の子はふしぎな石をジンに手わたします。それはたたくと美しい音のなる石、「カンカン石」。その音は、二人のすんだ心にひびきわたりました。

美しい音色で出会った 2 人の心温まる物語です。

高学年以上

尊敬する人はいません〈今のところ〉

中山聖子　作　合田里美　絵
文研出版

6年生の若羽は、自分のお父さんのことが好きなのか嫌いなのか分からない。自分の知らない不思議な世界のお話をしてくれて、小さい頃はすごいなって思っていたけど、お母さんが悲しむこともしてしまうし、今はなんだかよく分からない会社で働いている。だから、「自分の尊敬する人」をクラスで発表したとき、クラスメイトの待鳥くんが、「僕の尊敬する人は、父です」と堂々と言い、幸せな子だなあと思った。

一方、“待鳥くん”こと慧は、いつも正しい自分の父親のことを憧れていたが、少しだけ息苦しさも感じていた。

しかばねの物語 －チベットのむかしばなし－

星泉　編訳　蔵西　絵
のら書店

手に入れることができれば、世界中の人々をしあわせにすることができるという、特別なしかばね。トンドゥプは、哲学者の竜樹大師のところに、そのしかばねを連れてくることをちかう。ただし、しかばねを背負い、歩き続ける旅のあいだ、ひと言も口をきいてはいけないという。

デチュー・サンボという名前を大師にもらったトンドゥプは、山と谷をこえた先の墓場から、しかばねを背負い、大師の元へ向かう。

ひと言も話さないデチュー・サンボに、おしゃべりなしかばねは物語を話し始めた。

チベットで語りつがれてきたむかしばなし。